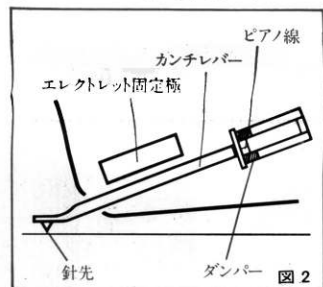


カーボンパイプトーンアーム  
UA-7/cf ¥35,500

# ムの新しい幕あけ。

換が行なわれます。次に図2のコンデンサー型のカンチレバーをご覧ください。



針先で拾いあげられた機械振動は、針先に近接した変換部で即、静電容量の変化として検知されます。つまりマグネティック型では針先→カンチレバー→支点→変換部という行程を踏むのに対し、コンデンサー型では、針先→変換部という行程にすぎません。カンチレバー周辺の共振が、スタックスのコンデンサー型では問題にならないわけです。そして振動系は針先とカンチレバーのみであるため、極めて小さな実効質量を実現しています。わずか1gという軽針圧でなみはずれたトラッカビリティをもつ所以です。

《一般のユニバーサルアームに取付可能です》  
CP-X/POD-X/UA-7(70)は、インテグレー

テッドタイプであったため、一般のトーンアームには取付できませんでした。しかし、このCP-Yは、ヘッドシェルへ装着するタイプとしたことにより、一般の高感度で軽量のユニバーサルアームでの使用が可能になりました。針交換もスムーズにできますので、機能性はMM型カートリッジとまったく変わりません。(交換針CP-Y/R-3)

調整を一切不要にした  
専用イコライザーアンプECP-1。

コンデンサーカートリッジの出力特性は、マグネティック型のそれとは少々異なっています。したがって独自のRIAA補正が必要です。ECP-1は、CP-Yから送りこまれる低周波信号にわずかな補正を加える働きと、CP-Yに内蔵されたICを動作させるための電源供給を行ないます。温度変化に対する安定性にすぐれ、調整は一切不要です。《バッテリー内蔵で電源の安定化をはかりました》  
ECP-1の電源は充電式バッテリーにより電圧を供給します。AC電源の電圧変動による影響を防止するためです。また、このことが

電圧供給の応答性を高め、立上りを大きく向上させました。1回の充電で40時間(充電により、約8000時間使用可能です)の演奏ができますが、常に充電量が減りすぎないように使用することが、バッテリーを長持ちさせる秘訣です。

《AUX端子へ接続してください》  
コンデンサーカートリッジは振幅比例型なので、高域が落ち、低域が上昇する独得の出力特性をもちます。このため、ECP-1によるRIAA補正はごく微量です。ECP-1からの出力は、音質を大きく左右するといわれるアンプのイコライザー回路を省略してAUX端子へ接続できます。また、出力が300mVあるので、レベル調整付のパワーアンプならダイレクト接続も可能です。アンプによる重要因からできるだけ解放されたいという方におすすしめします。

新しいシステムの一員として——  
共振の極小化に挑みました。  
カーボンパイプのUA-7/cf。

トーンアームの使命は、カートリッジの能力を100%引き出すことにあります。それは

針先の安定な保持と、トーンアーム自体の共振で、音質を変化させないことです。

UA-7/cfは、初動感度5mg以下の高感度をもつ一方、十分な共振対策が施されています。共振の原因であるパイプ部にカーボンファイバーパイプ(カーボンファイバーレインフォースト・プラスチック・パイプ)を採用。この素材は、一般の金属よりはるかに剛性が高く、共振Qが低いという特長をもちます。どんなカートリッジと組合せて使用しても聴感上はつきりとした改善がみられます。その軽量・高感度とあいまってCP-Yの実力を十二分に引き出すトーンアームです。

《完璧な接合を可能にしたシェルコネクター部の改良》

UA-7/cfのシェル部のコネクターは、全周から締めつけるチャッキングタイプを採用。接合をより確実にし、ガタをしめました。さらにコネクターピンをアース側から先に接触するようにして、シェル着脱時のノイズを防止しています。シェル自身は2ピンタイプを採用していますので、針先から出力コードまでの完全なインテグレート化が実現されました。